

巻頭言 「洗礼者ヨハネの問い」

宇野 元

牢に閉じ込められていた、洗礼者ヨハネ。彼は自分の問いを弟子たちに託して、イエスに伝えさせました。イエスもヨハネの弟子たちを通して答えを送られました（マタイ 11, 2-6）。

ある人が、これを刑務所での面会に重ねて思い巡らしています。両者の間には壁がある。壁の中にいる人が言葉を送り、言葉を受け取る。それはどのようなことだろうか？ 訪問する人と、訪問される人は、どのように言葉を交換するだろうか？ 交わされる言葉は、どれほど深く心に留められることだろうか。わずかな言葉、しかし大切な意味ある言葉を与えあうと思う。そして面会のあと、交わした言葉を、どれほど心のなかで反芻することだろうか。

壁の中から、ヨハネはわずかな言葉を送りました。「きたるべき方は、あなたでしょうか？」この短い問いのうちに、深い意味が込められています。私たちが聖書全体から学ぶに値することが、切り詰めた形で表現されていると言えるでしょう。「来る」こと。そして「待つ」こと。この二つのことが「きたるべき方」への問いにおいて結ばれています。「それとも、ほかの方を待たなければなりませんか？」聖書に教えられます。「来る」。これは、徹頭徹尾、神の側にあります。「待つ」。このことが、私たち造られた者の側にあります。そして壁の中から問うことと、外からの答えを受けとることが、生きた繋がりを与えられています。待つ——このことが、どれほど深く、私たちと、私たちを造られた神とを結んでいることか。さらに、どれほどのひろがりを与えられていることか。ローマの信徒への手紙第8章に記されているように。「被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます」。私たち人間と、すべての命ある存在が、待つことにおいて一つであるとみられています。つづいて次のように記されています。「わたしは確信しています。死も、命も、……わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」（ローマ 8, 19. 38. 39）。

ヨハネの弟子たちは、ヨハネに主からの答えを届けました。「私たちはこれらのことを見ました。また聞きました」。試練のなかで、ヨハネの心を何が支えたか、その秘密を汲み取ることができます。主に問いかけ、主ご自身からの答えを求めた。そして、主の御言葉によって確かにされた。試練のとき、私たちはどこに支えを得るのか、また求めるのか。主に求め、主の御言葉に支えられる。その生と死と復活の証に支えられる。ヨハネに与えられた幸いが、私たちにも示されています。